Revolving Radial Grating(説明)

高橋　啓介（愛知淑徳大学視覚科学専攻）

　　　　　　keitak（at markに置き換えてください）asu.aasa.ac.jp

本居　快　（福岡国際医療福祉大学視能訓練学科）

 kai.norinaga.0212（at markに置き換えてください）s.takagigakuen.ac.jp

現象の概要

　Radial Gratingをその垂直水平軸を固定したまま、偏心点を中心とし、cwあるいはccwに連続的に回転させると、Radial Gratingの中心点に外接する1つ、あるいは2つの小さなRadial Grating様PhantomがRadial Gratingと同方向に回転するのが知覚される（デモ用スライド参照）。このRadial Grating様Phantomは、印刷した刺激を用いると、混色した灰色の円として知覚される。

　Phantomの大きさや数は刺激の回転速度や回転半径に依存しているように思われる。

現象の考察

　この現象は、Radial Gratingの中心部分と周辺部分とでは回転速度が異なるために、中心部分の時空間周波数処理が追い付かなくなることによるのではないかと考えられるが、そうした処理がGradual に行われているのではなく、帯域的におこなわれているために、図の分凝が生じるのではないか。

　モニターと実物とで知覚が異なるのは、モニターのRefreshingに関係していると考えられる。